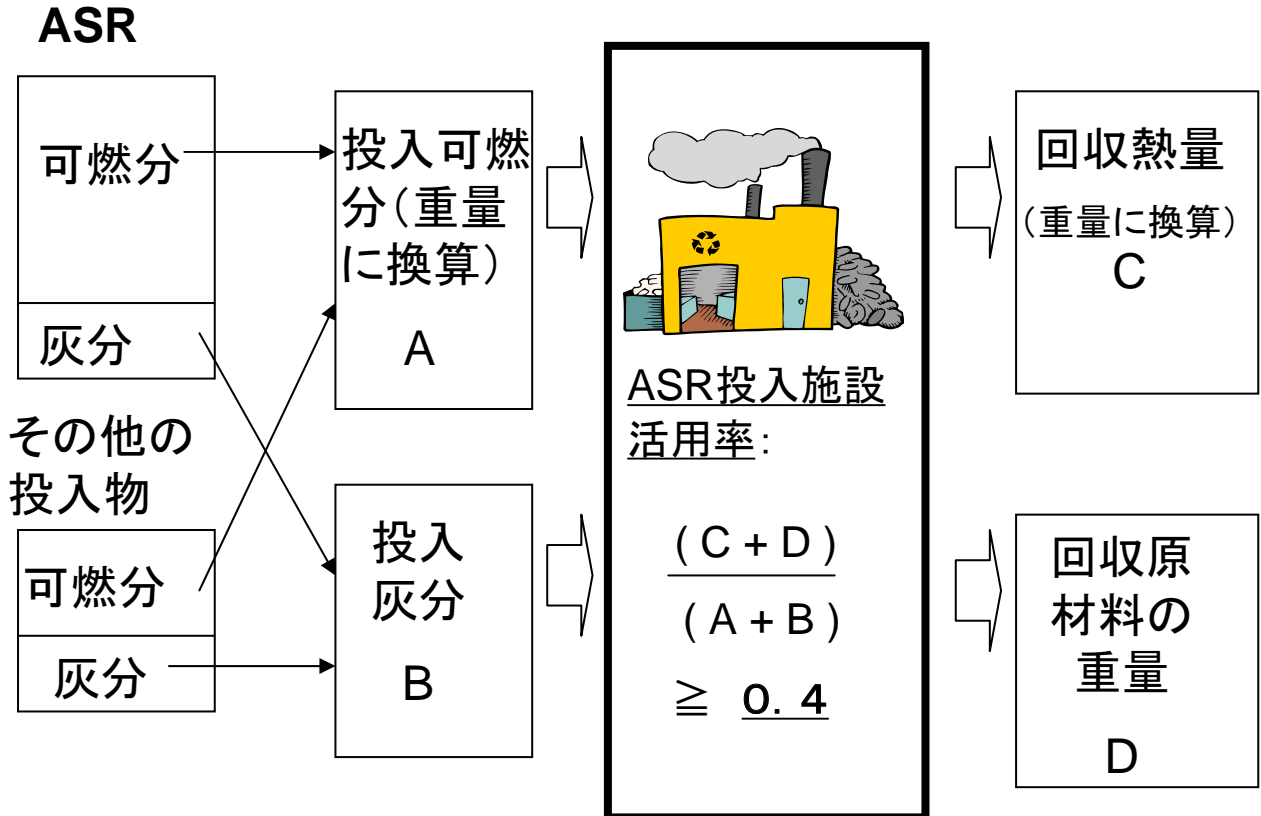


## 1. ASR投入施設活用率の算出方針

### 基準適合のASRリサイクル施設



#### <算出方針>

- ・ASR投入施設活用率の算出は、ASR成分の実測値を用いて、当面、毎年行うこと。
- ・ASR成分の測定方法を定めたこと。(測定回数、サンプリング方法、試料の調製方法 など)
- ・ASRの受入実績がなく、その成分の実測値を得難い場合は、実測値以外の数値を用いることもやむを得ないこと。(この場合、採用値の設定根拠を明らかにすること。)

など

## 2. ASRリサイクル率の算出における 固形燃料の取扱い

ASRリサイクル率 (※)

$$\frac{\text{基準適合のASRリサイクル施設への投入重量} - \text{当該施設から排出される残さの重量}}{\text{自動車製造業者等が引き取ったASR重量}}$$

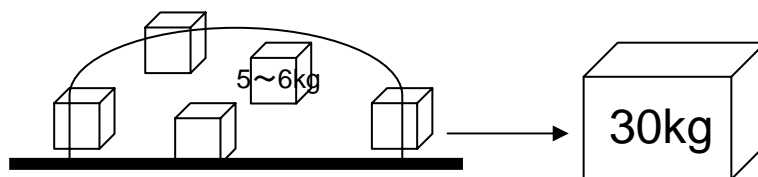
(※)31条認定を受けた解体自動車の全部再資源化に係る項は除いている。

### <固形燃料の取扱い>

・ASRリサイクル率の算出に当たり、ASRリサイクル施設から回収された固形燃料のうち、焼却残さに相当する重量（現に有効利用されたものを除く。）を、上記式中の「当該施設から排出される残さの重量」に含めること。

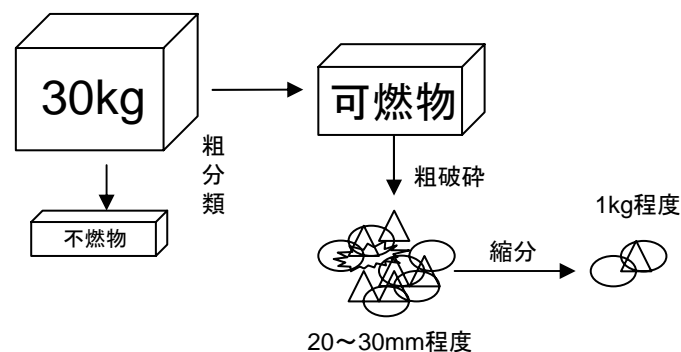
## 試料のサンプリング及び調整の方法

## A 試料採取



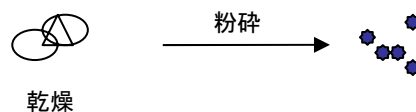
- ①ストックヤードでランダムに5～6箇所から各5～6kg程度、合計で30kg程度サンプリングを行う。
- ②試料総重量を計測する

## B 粗破碎・縮分



- ①原試料を、不燃物と可燃物(細かい土砂、被覆電線等を含む)に粗分類する。
- ②不燃物の重量を計測する。
- ③可燃物を20～30mm程度に粗破碎(あるいは裁断)して粒度を整えた後、重量を計測する。
- ④可燃物を四分法により1kg程度まで縮分し、分析用試料とする。

## C 乾燥・粉砕



- ①分析用試料を乾燥し、乾燥前重量及び乾燥後重量差で水分量を算出する。
- ②乾燥後試料を全量粉砕(2mm以下)する。